

目次

目次	1
はじめに	2
● 事業一覧	5
(1) 活動対象地域別実施事業一覧	6
(2) 年度別実施事業一覧	9
● 事例紹介	13
1 教育研究に関する我が国の経験の活用	15
2 持続可能な発展のための教育 (ESD) の推進	27
3 青年海外協力隊等派遣教員の支援	37
4 知的支援ネットワークの形成	43
5 関連情報の整備・管理	47
● 成果発表	51
(1) 「グローバル・フェスタ・JAPAN」への出展	52
(2) 文部科学省「情報ひろばラウンジ」での出展	54
(3) 「国内報告会」の開催	55
(4) パンフレット・報告書一覧	58
● 事業評価	61
(1) アンケート調査結果	62
(2) 現地調査報告	74
● まとめ	87
● 参考資料	91
(1) 「知のODA 懇談会」報告書 概要	93
(2) 推進委員会名簿	94
(3) 実施委託要綱	95
(4) 公募要領	96
(5) 活動実施計画書 (様式)	100
(6) 活動実施報告書 (様式)	101
(7) 年度毎の事業評価	102
(8) 年間スケジュール	104
(9) 事業実施者・役割一覧	105
(10) 成果物一覧	117

日本の「知」を活用した国際協力の推進

平成18年度の「国際教育協力懇談会」において、報告「大学発 知のODA～知的国際貢献に向けて～」がとりまとめられました。同報告では、我が国が国際社会における責務を果たし、開発途上国の様々な課題をより効果的に解決するために、大学はじめ我が国が有する「知」を活用した国際協力の推進が提言されています。

この提言を踏まえ、文部科学省では平成19年度から平成22年度までの4年間、委託事業「国際協力イニシアティブ」を実施しました。

同事業では、大学、NGOといった我が国の教育関係者などがこれまでの教育・研究・活動を通じて培った知識や経験を整理・蓄積・体系化し、開発途上国における検証活動を経て、国内外の援助関係者が教育協力の現場で活動する際に役立つ教育協力の活動モデルや教材、カリキュラム、教授法などの成果物を作成しました。

「教育研究に関する我が国の経験の活用」「持続可能な発展のための教育（ESD）の推進」「青年海外協力隊等派遣教員の支援」「知的支援ネットワークの形成」「関連情報の整備・管理」の5分野に分けて事業の企画を公募し、外部有識者による「国際協力イニシアティブ推進委員会」での選考を経て選定された委託先に事業を実施して頂きました。

また、これら成果物の電子情報を、国際教育協力に役立つ周辺情報とともに、HP「『国際協力イニシアティブ』ライブラリ」に収蔵し、国内外に向けて広く情報を公開しました。平成22年3月現在、同HPには1,976件の情報が登録されており、世界中から30,000件/月程度閲覧されています。（平成23年4月1日より「国際教育ライブラリ」<http://library.criced.tsukuba.ac.jp/>）

今般、本事業を終了するにあたり、事業の趣旨や活動成果などをまとめて事業を総括するとともに、事業終了後も引き続き成果物を活用して頂くための広報を目的として本報告書を作成しました。

開発途上国からの要請が多様化・高度化する中で、我が国の国際教育協力を充実していくために大学等の知見を活用する必要性は増大しています。一方で、国際教育協力は多くの大学にとって必ずしも馴染みがある分野ではなく、また国際教育協力に従事する教員を組織的に支援する体制も整っていないことから、国際協力への大学の参画は限定的なものに留まっているのが現状です。こうした大学の自助努力のみでは改善され難い点については、大学の自助努力に加えて、大学の国際協力への積極的な参画を押し進めるための下地作り、環境づくりといった国レベルからの働きかけも必要と考えます。

今後、大学の国際協力への参加を促進する取組を企画・実施する際の礎としての役割を本報告書が果たすことを期待します。

国際協力イニシアティブ（図解）

目的

- 大学の社会貢献活動として、相手国からの要請主義で大規模プロジェクト中心のJICAでは実施できないような開発途上国支援に、組織的に参加
- 教員及び学生の実践的な活動により、開発途上国支援に携わる人材や、将来JICAのプロジェクトに参画できる人材の発掘・養成

経緯

■ 政府開発援助（ODA）における課題

- 貧困、感染症、災害、平和構築、エネルギー、環境等の地球的規模の課題への対応
- 我が国ODAにおける量から質への転換
- 良好な外交関係構築のためのODAの戦略的な実施

■ 我が国の教育における課題

- 教育全般を通じた国際化・グローバル化への対応
- アジア地域を中心とした高等教育需要への対応
- 国際開発協力への参画を通じた我が国の教育改善・大学改革

国際教育協力懇談会報告 2006
大学発 知のODA ～知的国際貢献に向けて～

課題に対応するための知的国際貢献の必要性／我が国ODAにおける大学が有する「知」の活用

「国際協力イニシアティブ」の実施

体制

■ 期待される成果

国際協力関係者（援助機関、大学、NGO、途上国政府等）による成果の活用
— 国際協力の質の向上、国際貢献 —

■ 実施体制

